

次亜塩素酸水のウイルスに対する不活化効果試験

—試験報告書—

試験番号：207018N

株式会社 食環境衛生研究所

〒379-2107

群馬県前橋市荒口町 561-21

Tel027-230-3411

Fax027-230-3412

11. 結果

インフルエンザウイルスに対する試験結果を表 1 及び図 1 に示した。

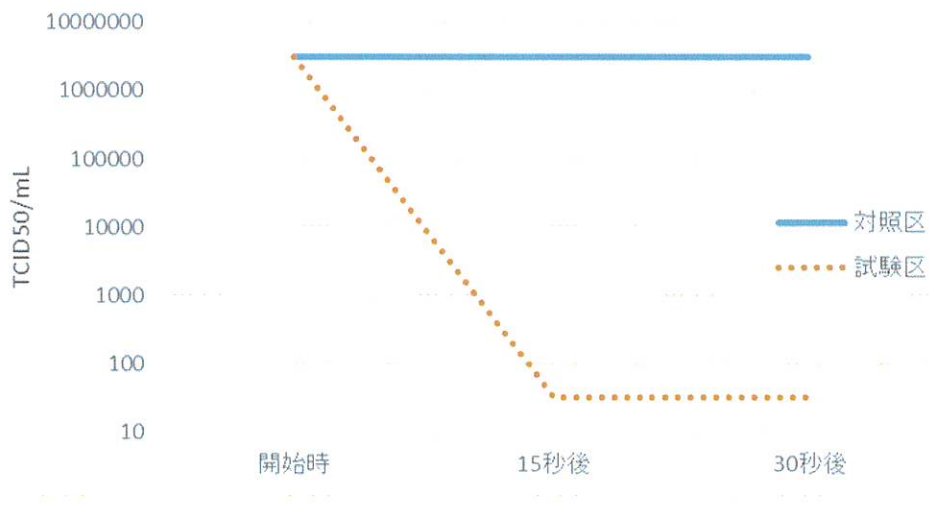
対照区では試験開始後から、試験開始後 30 秒までの間にウイルス量の変化は見られなかった($10^{6.5}$ TCID₅₀/mL)。

試験区では開始後 15 秒で $10^{1.5}$ TCID₅₀/mL 未満 (検出限界以下、99.999%以上減少) となった。

表.1 インフルエンザウイルス試験結果(TCID₅₀/mL)

区	試験開始時	開始後 15 秒	開始後 30 秒
対照区		-	$10^{6.5}$ (3200000)
試験区	$10^{6.5}$	$<10^{1.5}$ (<32)	$<10^{1.5}$ (<32)

図1 インフルエンザウイルス 試験結果



12. 考察

今回、次亜塩素酸水のインフルエンザウイルスに対する不活化効果試験を実施した。その結果、インフルエンザウイルスに対しては 15 秒以上反応することで 99.999% 以上不活化効果があることが判明した。

以上の結果から、次亜塩素酸水はインフルエンザウイルスに対して顕著な不活化効果が確認された。